

大学院生の社会貢献

足下からの多文化共生

国際開発研究科の大学院生を講師にむかえて、多文化共生に関するシンポジウムを開催します。「多文化共生」という言葉は、日本社会でも定着してきました。しかし、それは表層的な「フード」(foods)、「ファッション」(fashion)、「フェスティバル」(festival)の消費にすぎず、外国にルーツを持つ人びとの困難な状況は看過されているとも批判されます。本シンポジウムでは、そうした「3F」を越えた、より実質的な国際理解教育や多文化共生を実現する可能性や課題について考えてみたいと思います。

日時：2015年10月17日 12時30分～14時00分

場所：名古屋大学大学院 国際開発研究科 8階多目的オーディトリウム

(<http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/global/general/map.html>)

「国際理解教育と多文化共生」

長島美紀 (EIUP：国際理解教育プログラム)

日本でも外国人や外国にルーツをもつ者の数は年々増加し、異なる文化をもつ人々が同じ地域に暮らす社会になってきました。世界との距離も縮まるなか、異文化に対する柔軟な態度、国際的な意識をもち、自ら解決しようとする姿勢が私たちに求められます。国際理解教育は子どもたちが異文化に触れ、体験する活動を通して今の時代を生きる力を育む、多文化共生の社会への出発点になります。EIUPの国際理解教育活動を報告するとともに、活動を通して見えた問題点や課題、そして今後の社会にとっての国際理解教育の重要性とその可能性についてお話しします。



「真の多文化共生を目指して——私たちにできること」

加登杏未 (POPIC：真の多文化共生を目指すパブリック・アウトリーチ・プロジェクト in 名古屋)

愛知県には約20万人の外国人住民が暮らしています。POPICは主に名古屋大学の大学院生が地域の専門家(NGO、行政書士、大学教授等)と協働で実施しているコミュニティ参加型事業です。愛知県に暮らす外国人住民が直面している課題と、実際に提供されているサービスの現状を調査し、その改善に寄与することを目的としています。調査結果から見えてきた課題を現場に反映することで、真の多文化共生社会の実現への貢献を目的に活動しています。「真の多文化共生」のあり方とはどのようなものなのか、それを実現するためには何が必要なのか。ぜひ一緒に考えましょう。



*お問い合わせ先：日下 渉 (kusaka@gsid.nagoya-u.ac.jp)